

創設するために非常に困難に遭遇した。人事的に言っても、一方では他学科の先生に退いてもらい、児童学の教育を新たに割込まねばならないし、場所的に言っても、本館の中では研究室は割当てられず、幼稚園の中に二室を割いていただいで、辛うじて創設が認められた。

この時の先生の御苦心は、長い教職生活の中で一番心労されたことであろう。あの温厚な学内の信望高い老教授が、この問題のために方々から非難され、中傷され、侮蔑の言葉さえ度々受けながらも、先生はじっと耐えて、ひたすら児童学科の成立のために苦勞をなされた。この心勞が先生の御健康を著しくそこなつたと云えよう。

このように苦心して創設された児童学科で、しかし先生は一度も講義をなさらなかった。既に健康がそれを許さなかつたと云うよりも、初めから先生は教授として華々しく活動される御意志は無かつたことと拝察している。全く私を無にして、日本の児童学の科学的研究の基礎を確立するために最も尊い奉仕をなされたのである。

又先生はいわゆる科学的研究には飽き足らず高度の洞察的研究を要求された。わかりきった統計や非生産的な研究に対しては風刺をもって急所をつき、先生の優れた経験のちえによつた研究方向を指示された。研究発表会の時には先生の批評や感想の方が研究よりよほど面白く、啓発されたもので

ある。

もし二十年早く児童学科が創設されていたならば、倉橋学派が生れ、日本の児童研究は世界でも最も質のよいものが出来ていたと思う。

子どものために 先生方のために

及川ふみ

大正六年、倉橋先生が東京女子高等師範学校附属幼稚園主事になられて、先ず保育の実際について変つたことの一つに「会集をやめましょう」ということであつた。「免に角幼稚園の一日の保育は、自由遊びから段々まとまったものになっていくべきだと思ひます。自由遊びから仕事へというのが保育課程の本質だと信じます」

これは倉橋先生がその著幼稚園真諦に会集について意見をのべられているのであるが、その当時幼稚園の先生の新米と

しての自分は、この会集廃止論は本当にありがたかった。毎朝の会集にお立ち番、おひき番があつて、お立番は幼稚園全体の幼児をU字形に三重位に並べた中央に立つて、お話をしたり、子どもに歌をうたわせたりする司会者になるわけであり、おひき番は、司会者の云うなりにピアノをひくのであつた。大人の世界から急に思ひもかけない幼稚園の先生になつた自分であつたので、幼児に適切な言葉づかいが出来ない。ことに関西なまりが強くて来て東京風な話をするのが苦手であつたので、この会集の司会は、一入つらいものであつた。おひき番はピアノが下手でこれまたなかなかの重荷でもあつた。就職して一年会集なかりせばと願つていたときでもあつたので、ほんとに会集廃止論のありがたさは、たとえようもなかつた。

ある朝、先生方皆子どもをつれて、わたしについて来て下さいということ、組の先生が先頭に立つて子どもを引きつれどんどんかけ走つた。講堂前の広場へついてからは、ぐるぐる渦巻になつて走つた。はたと行進がとまつたと思つたら倉橋先生が大きな声で「お日様今日は」とお日様の方に向つておっしゃつたので、皆もこれをまねて大きな声であいさつをしたら、自分のそばにいた子どもの一人が何ーんだといったのを思ひ出す。幼稚園雑草の中「日光の子ども」の中に「春の日は照々たり。いざ子供等と共に日和に出でん。太陽

をして存分に吾等と子供等とを教育せしめんがために」と云われている。

人形芝居のはじまり、子どもに人形芝居を見せるのに人形芝居の舞台が幼稚園に出来た。幕は揚げ幕で、なかなかしゃれたローケツ染であつた。これは高島屋謹製であり、菅原教造先生の御心づくしの贈りものであつた。子どもの為の人形芝居であつたが、倉橋先生が先ず職員室に舞台を据えて観客の私共のみせて下さつたのは「塩原多助愛馬青の別れの場」であつた。子どものためには外題が何であつたか、いろいろ考へても思ひ出せないほど塩原多助の一幕は熱演ぶりであつた。

動物園ごっこ 上野の動物園へ見物にいつて来てから、床上積木や、粘土などで動物園ごっこをしたのを思ひ出す。ごっこ遊びを指導していただいた始めである。

先生方の為に

本郷弥生町あたりであつたかの様に覚えているが、春休みの一日先生方皆を、彫刻家新海竹太郎先生のアトリエに連れていつて下さつて、いろいろ作品を拝見したり、御話を伺つたりして勉強させていただいた。その夏、文部省の講習に堀進二先生を招じて粘土製作の指導を受けた様であつたが、都合あつて自分は帰省してしまつて残念であつた。そのモデルになつた作さんという好好爺さんの、本校の小使さんがあつたのを思ひ出す。受講者中の一人が製作途中こまつて頭を

上下をあべこべにしたなどこの講習はなかなかむづかしかった様子をあとで書いた。

滝の川学園の見学にも連れられていった。先生方と一緒にこの学園に育てられているいく人かの異常見について園長石井先生御夫妻の御話を伺い感激した事もあった。

大正六、七、八年は次々と子ども直接の為に、先生方の為に、いろいろと勉強させていただいたが大正八年十二月十三日、どんよりと曇った小雪ちらつく日、横浜より外遊の途につかれた。

その年の十一月二十八日ニューヨークよりの御手紙の一節南の方の旅行から帰って来て、十月十九日附のお手紙をおくれて拜見しました。

先ず何から書きましようか。やっぱりヨウカンの御礼から書きましよう。但し、ヨウカンの方へさきにくいについて、それから皆さんのお手紙を開いたのではまさかにはありません。お手紙の方を先ず拜見してそれからおもむろに、おもむろらしく、ヨウカンにとりついたので。そして、どんなに味わったとお思いですか。

先づ第一の一ときれは久し振りのあの滑かさと甘さまで舌が酔ったのです。次の一ときれは、ああ玉露がほしいなあと少し精神が働いて来たのです。その次のもう一ときれは、突如として我が精神の一部にある淋しさを誘って来た

のです。どうしたんでしよう——いくらヨウカンの味は同じでも、ここは日本じゃない。いくらヨウカンの味は同じでも、ここは皆さんといっしょにあの大テーブルをとりかこんで居るんじゃない。と斯う精神が大に働いて来て、つまり平生気のつかずに居る、ものたりなさ淋しさが、久し振の藤村のヨウカンから、ふらふらと誘い出されたのです。そしてヨウカンの甘みといっしょに溶けあつて味わわれたのでしよう。こういうのを甘い淋しみというのでしようか。またじょうだんにしてしまつて御免なさい。

青嵐氏の絵の御礼と、手拭の御礼と、幼稚園の写真の御礼とは、ひきくるめてただ有難うだけにしておきましよう。旅でああいう心づくしのものを受取つた時の心持ちは、いくら書いたって、どうせ、あなた方には、到底おわかりにならないのですから。いいえ決しておわかりにならないのですから。(幼稚園の写真はコロンビア大学の幼稚園のミスヒルの処へもつて行つて説明つき自慢つきで贈つて来ました。)

皆さんの御健康でお褒りないのは何よりです。

お手紙に大抵はお茶の水に越すところはなくとありますが全くそうです。あんないいところは世界(まだ半分ですが)中ありませんよ。誰が何といつても世界第一です。但し建築はあれより少々いいのがあります。設備も少々い

いのがあります。ただあの幼稚園殊にあの職員室にホーハクとして漲って居る、呑気性、茶目性、笑い性に至っては他に類を見ませんね。而して此のお茶の水幼稚園職員室たるや実に世界無比です。如何ですこの頃も此の大スピリットがホーハクとして漲って居ますかね。

大正十一年三月元氣よく外遊から歸られた。みだしなみのよい先生が二ヶ年間の外地生活で一きわみがきがかかってまぶしい様にスマートな容姿になられた。

外観だけでなく毎日の保育にいろいろ新しいこころみで満ち満ちた幼稚園であった。やがてその結晶が幼稚園真諦となつて誕生したのである。

故倉橋先生を

お偲びして

大瀧 晴

私が、初めて倉橋先生の御弟子として先生の御指導をいた

だくようになったのは、大正四年のことでもございました。私は大正二年三月東京女高師文科を卒業して同校附属幼稚園に奉職したのでしたが、倉橋先生は、それから二年後に、当時主事であられた安井哲子先生が、東京女子大学の創設と共に学長として就任されましたので、その後任として、附属幼稚園の主事になられたのでございました。当時、先生は、二十七、八才、本当にお若く潑刺としていつもにこにこして元氣にあふれていらっしやいました。先生は、当時、外国で御勉強なさつて幼児教育に関する新しい学説を携えてお帰りになつたばかりで、先生の御講義、御指導は幼児教育にたゞさわるものの憧憬的でございました。先生の心理学者としての鋭い御眼識は、実に恐ろしい程私共の心の中を見抜いて細かく分析し解剖してえぐるようなメスを入れて、容赦なく批判御指導下さいました。併しその御指導が実に明瞭で、わかり易く、ユーモアに富み、快く笑いながら心深く刻みつけるといふ先生独特のものでした。これは先生の御指導を受けられた全国幾万の倉橋先生崇敬者の等しく御同感下さることと信じます。

先生の自由主義の幼児教育は、当時の古い形式的な幼稚園しか知らない私共には何も彼も驚異であり、そして即時に実現の希望をそそることはかりでした。しかも女高師附属幼稚園は全国にさきがけて先生の学説を実現しなければならぬ立